

釜ヶ崎事件に思う

大高時男

に対する激しい反感と、これを裏がえした劣等感のみである。
この暗いムードの中で、売春、ボン引き、麻薬取り引き、ケイズ買（贓物故買）、美人局、当り屋、かま

な交通事故はこの地域でも珍らしいことではない。
また、死体をすぐに収容しようにも、救急車は死体を運ばないことになつていゝるし、さらに本署のバトカーも出動中であつたことを考えると、必ずしもこれが原因であるとはいえない。
私は、この事件を心理学にいう攻撃的乱衆行動、いわゆるモップ（暴動）であると考へる。

はたちまちにして、心理学にいう攻撃的乱衆（モップ）に発展する。
しかも、その原因は殆んどの場合、関心の対象についての誤つた認識やデマから起る。
そして、群衆のもつ「無批判性」「非合理性」は、群衆の一人一人に正しい判断を許さない。
そのかわり、想像や臆測がとつて代り誤解を真実と受けとり、たとえ反証が挙つても、結局コジツケによつて、逆にその、誤れる真実性（？）が強められる。

東京の「山谷」と並び称される大阪の「釜ヶ崎」一帯は、約二百余りの簡易旅館があり、ここに集まる二万とも三万ともいわれる人々は、失業、破産、病氣という同情すべき原因から、社会の敗残者となり、ここに流れた人々も多いが、犯罪を犯してここに身をかくすものや、犯罪を原因にここに転落してきたもの、厳しい暴力の取り締りのため、組織を離れ喰いつめてここにもぐり込んだ者も少なくない。

暗い過去の人々

これ等の人々は、日雇。街頭商人、立ちん坊をはじめ、種々雑多な方法で、それぞれ暗い過去を隠し、孤独を守り、厳しく寒々とした現実と斗つて、辛うじて最低生活を送つてゐる。
ここには、映画やテレビ、小説などにみられるような、原始共産的な助けあいや、弱者同志のヒューマニズムというような、あまつちよるいムードはなく、あるのは、彼等をここに転落させた社会

戦前の警察ならばいざしらず戦後の民主化された警察においては、犯罪者の人権すら声を大にして「尊重」を叫ぶ折から、ドヤ街の住人だからという理由で、その人権を軽視するということは、絶対あり得ない。人権軽視の批判は全くの誤解であるというほかはない。
今回の暴動の発端は、交通事故処理の不手際にあるとされているが、このよう

このような、反警察感情を共通の地盤として、この地域の人々は一種の親近感を持つに至り、一般社会に対する強い劣等感や生活上の様々な怨求不満と結びついて、攻撃的傾向を無意識に蓄積させているのである。
この攻撃的傾向は、たゞ何か一寸した契機があれば爆発し、一人がトツピな行動をすれば、他の者もこれに従ひ、群衆

やがて投石が始まると、群衆は攻撃的乱衆と化し、いふなれば、攻撃の対象はどの特定の対象ではなく、暴徒の赴くところ、目にはいるものにはあたりかまわず破壊と暴行を加へ、群衆の「無名性」「無責任性」がこれに拍車をかける。
そのうちにリーダーが出て、暴徒の方向を一定方向に向ける……タクシー、電車、一般商店までも被害を受けたが、やがて、反警察感情の強い「暴力常習者」「前科者」「暴力手配師」がリーダーと

時 話 題

なり、警察署、派出所、バトカー等に攻撃が集中されることとなつた。
特に第二日以降はその色彩が濃かつた。
暴徒にとつて好都合だつたことは、暴徒が例のユニフォーム姿であり、暴動に加わらずにヤジ馬だつたドヤ街の他の人々と同一服装であつたことである。
警察は、はじめは暴徒とヤジ馬の区別がつかず、ソバツエを危ぶんで実力行使を控へた。
しかし、警察が情勢を適確に把握し、暴徒を確認して、強力な鎮圧に出るや、彼等は群衆の弱点をバクローして、散りぢりになつてしまつた。

暴力団も参加した

また注目すべきは、暴力団が自警活動

をしてゐるが、これは事件が思ひがけず彼等の縄ばりにまで飛火したからであつて、むしろ騒動のリーダーになつたほうが多く、現実には逮捕された者のうち、暴力団関係者の多いことは、この事実を裏書きしてゐる。
熊本市内の暴力団の一人がこれに参加して逮捕されていることからしても、警察とナレ合ひということでは当らない。
こぞつて暴力追放を

戦前の国家警察があまりに強大すぎたことに対する反感からか、民主的なものたるべく懸命の努力を続ける警察に対して、その責任に属することであろうと、かろうと、極端な批判攻撃をすることが、進歩的であるかのような風潮が一部にあるが、これはまことに残念なことといわねばならない。
警察を非難することのみによつて「釜ヶ崎」が解消するならそれでもよいであろうが、警察以外の行政権限を持つ国や地方自治体の機関、団体をはじめ、民間有志や宗教団体など、あらゆる者が一体となつてスラムの解消に当らなければ、再びこのような騒動を繰りかえすほかはない。
幸いにして、熊本県では、県民の皆さ

この事件を契機に、スラムのみならずあらゆる暴力をうむ温床が、各関係機関や団体の有機的な努力によつて絶滅されるよう期待すると共に、県民の皆さんの暴力追放に対するご協力を心からお願いしたい。
(県警察本部捜査第二課長)

秋晴れの日を 皆さんと共に 第6回 熊本県 NHK 移動相談

毎年県とNHK及び地元市町村共催で開催してきた文化キャラバンは、今年から移動相談と名称をかへ、県教育委員会も加わり、内容も一そう充実させて、次のように菊池郡市の各地で開催することになつた。

- (時と場所)
10月10日(火) 菊池市水源北小学校
" 11日(水) 七城村中央小学校
" 12日(木) 旭志村旭志中学校
" 13日(金) 泗水町泗水中学校
" 14日(土) 大津町大津小学校

- (内 容)
(1)各種相談 (11時~15時)
・衛生、農業、林業、民生、商工、水産、教育、警察、一般行財政
・ラジオ、テレビの相談と修理
(2)知事を囲む懇談会 (15時~17時)
知事が皆さんと親しくヒザを交えて、ご質問に答えたりご意見をおきします。
(3)演芸の夕 (19時~21時)
・自衛隊の演奏・三つの歌・映画

定例県議会開かる

9月16日から開かれた9月定例県議会は、15億余円にのぼる追加更正予算案をはじめ、各種条例の一部改正等その他27の議案が上提された。会期は9月25日まで。

九州第2位!!

だが残念 交通事故の死者増加

今年に入つてから、熊本県の交通事故は、ウナギのぼりに増加している。1日平均8件というからうかうか道も歩けない……とはいつても、歩行者自身の不注意も原因、車の運転にも原因があるとすれば、お互いが新しい交通法をよく守る以外はない。

今年の1月から10月2日までの交通事故の状況は………

件数	2,207件	(昨年同期は1,932件)
死者	114人	(" " 92人)
負傷者	2,331人	(" " 2,053人)

特に死者の増加は福岡について九州で第2位全国でも12か13位という自慢にならない成績。次の事柄は特に注意したいもの。

- (1)道路を自分勝手に使用しないこと……商品を道路に張り出したり、自動車や自転車の修理をしたりしないこと。道路に工作物を設けたり、作業をしたりする時は、警察署長の許可が要する。
- (2)歩行者が道路を横切るとき……正しく右側を歩いて、正しく横断。運転者は、人が横断しているときは、必ず徐行するか一時停止しなければならぬ。特に子供が横断している場合は気をつけて……。 (県警本部)